

「近代以前の磯部・磯部温泉」

群馬県立女子大学 北川 和 秀

1. 金井沢碑（神亀三年726）

【釈文】

上野国群馬郡下賛郷高田里
 三家子孫為七世父母現在父母
 現在侍家刀自池田君目頼刀自又児加
 那刀自孫物部君午足次駄刀自次乙駄
 刀自合六口又知識所結人三家毛人
 次知万呂鍛師磯部君身麻呂合三口
 如是知識結而天地誓願仕奉
 石文

神亀三年丙寅二月廿九日

【訓読文】

上野国群馬郡下賛郷高田里の三家の子孫、七世の父母・現在の父母の為に、現在侍る家刀自、池田君目頼刀自、又児加那刀自、孫物部君午足、次に駄刀自、次に乙駄刀自、合せて六口、又知識に結べる人、三家毛人、次に知万呂、鍛師磯部君身麻呂、合せて三口、如是知識に結びて天地に誓み願ひ仕へ奉る石文。

神亀三年丙寅二月廿九日

2. 『続日本紀』

①上野国甘楽郡の人中衛物部蛭淵ら五人に姓を物部公と賜ふ。

（天平神護元・一一・一）765

②上野国甘楽郡の人外大初位下磯部牛麻呂ら四人に姓を物部公と賜ふ。

（天平神護二・五・二〇）766

3. 『和名類聚抄』

碓氷郡

飽馬 安木末 石馬 坂本 佐加毛土 磯部 伊曾倍 石井 伊波井 野後 駅家 浮囚
 （上野国）

4. 『吾妻鏡』

・件くだんの御教書、去る月五日西念の住む所、上野国磯部郷に到着す。

（建仁元・五・一四）1201

*西念は鎌倉幕府の御家人佐々木盛綱。源頼朝に仕え、平家追討に功績があった。頼朝の死後、出家して西念と名乗った。建仁元年、越後の城資盛が反逆を企てたとき、幕命によって上野から越後に軍を進め、資盛を破った。時に五十一歳。没年未詳。

5. 幕府裁定の地図（万治四年）1661

《現在知られている最古の温泉マーク》

6. 「諸国温泉功能鑑」（文化十四年）1817

東大関 上州草津之湯

東前頭三枚目 上州伊香保湯

東三段目 上州川原湯

西三段目 上州嶋の湯

西三段目 上州老神湯

勸進元 上州沢渡湯

7. チェンバレン『日本事物誌』（明治二十三年）1890

日本は火山と地震の国であるから、当然ながら鉱泉が豊富である。日本人は、入浴を強く愛好するので、それらを十分に活用している。幾百とある日本の温泉の中でもっとも有名なものは次の通りである。―硫黄泉では、草津、蘆の湯、日光の近くの湯元、那須、塩原、長崎の近くの雲仙。鉄鉱泉では伊香保、有馬、別府。塩泉では、熱海、磯部。

（「鉱泉」の項）

8. 島崎藤村『芽生』（明治四十一年）1909

その晩、私は急に旅行を思い立った。磯部の三景楼というのは、碓氷川の水声を聞くことも出来て、信州に居る時分よく遊びに行った温泉宿だ。あそこは山の下だ、あそこまで行けば、山へ帰ったも同じようなものだ、と考えて、そこそこに旅の仕度を始めた。

9. 島崎藤村『新生』（大正七年）1918

岸本の足は谷中の方へ向いた。彼には義雄の家で用向のために待受ける約束の人があり、保養らしい保養もしないでいるあの兄を誘って磯部あたりまで行って見たいという心があった。彼にはまた、久しぶりで山地に近い温泉場まで行き、榛名妙義の山岳を汽車の窓から望み、山気に包まれた高原や深い谿谷に接するという楽しみがあった。あの塩分の強い濁った鉱泉の中に浸りながら、碓氷川の流れる音でも聞いて、遠い旅から疲れて帰って来た身も心をも休めたいという楽しみがあった。

10. 岡本綺堂「磯部の若葉」（大正五年）1916

磯部には桜が多い。磯部桜といえは上州の一つの名所になっていて、春は長野や高崎、前橋から見物に来る人が多いと、土地の人は誇っている。なるほど停車場に着くと直ぐに桜の多いのが誰の眼にもはいる。路ばたにも人家の庭にも、公園にも丘にも、桜の古

木が枝をかわして繁っている。磯部の若葉はすべて桜若葉であると云ってもいい。

おとしの夏ここへ来たときに下磯部の松岸寺へ参詣したが、今年も散歩ながら重ねて行った。それは「どうも困ります」の陰った日で、桑畑を吹いて来るしめった風は、宿の浴衣の上にフランネルをかさねた私の肌に冷やびやと沁みる夕方であった。

寺は安中みちを東に切れた所で、ここら一面の桑畑が寺内まで余ほど侵入しているらしく見えた。しかし、由緒ある古刹であることは、立派な本堂と広大な墓地とで容易に証明されていた。この寺は佐々木盛綱と大野九郎兵衛との墓を所有しているので名高い。佐々木は建久のむかし此の磯部に城を構えて、今も停車場の南に城山の古蹟を残している位であるから、苔の蒼い墓石は五輪塔のような形式でほとんど完全に保存されている。これに列んで其の妻の墓もある。その傍には明治時代に新しく作られたという大きい石碑もある。

11・巖谷小波、磯部温泉に訪れる。(大正十五年) 1926ころ

《舌切り雀》

*ただし、巖谷小波「日本昔噺」叢書の第七編「舌切り雀」は明治二十八年1895刊。

古代の上野国

